

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し生きる力」「社会で求められる即戦力」を育成し、地域から信頼される学校
総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現

⇒○生徒一人ひとりのニーズに応じた、きめ細かい丁寧な指導を実践

○地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育の実践

- (1) 自己を高める力・・・確かな学力を育み ねばり強さと未来に希望を持つ志の育成
- (2) 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り 周囲と協力し合う力の育成
- (3) 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力の育成

2 中期的目標

1 学習活動の充実

(1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。

(2) エンパワメントスクール（総合学科）として、選択科目およびエンパワメントタイムの学習内容の充実と、新学習指導要領における教育活動の充実に図る。

* 生徒学校教育自己診断における「授業わかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）を令和5年度には75%以上とする。

(H30; 60.2%、R1; 59.3%、R2; 74.7%)

2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり

(1) 生徒一人ひとりを大切にす生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。

* 中途退学率を令和5年度には5%以下とする。(H30; 6.1%、R1; 6.2%、R2; 4.1%)

(2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。

(3) 各中学校との連携を密にし、中学時の状況を把握し、個々の生徒指導に活かす。

(4) スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を強め、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、随時、ケース会議及び拡大教育相談委員会を開くなど、積極的計画的に生徒支援や進路支援をしていく。

* 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和5年度には75%以上とする。(H30; 63.2%、R1; 64.8%、R2; 74.0%)

(5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。

(6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努める。

(7) 外国にルーツを持つ生徒が多数在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化理解教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

* 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和5年度も80%以上を維持する。

(H30; 58.4%、R1; 68.8%、R2; 87.9%)

3 キャリア教育・進路指導の充実

(1) 自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践し、「学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さ」を理解し、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを積極的に進める。

(2) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としてキャリア教育を中心とした教育活動をすすめる、社会で活躍する意欲や態度を育成する。

* 進路決定率を令和5年度には85%以上とする。(H30; 83.2%、R1; 82.9%、R2; 85.2%)

* 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和5年度も85%以上を維持する。(H30; 76.3%、R1; 75.7%、R2; 87.5%)

4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

(1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。

* 生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価（学校生活満足度）を令和5年度には75%以上とする。

(H30; 63.1%、R1; 65.4%、R2; 74.6)

* 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価（エンパワメントスクール満足度）を令和5年度も85%以上を維持する。(R1; 72.7%、R2; 86.4%)

(2) 学び直しやデュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

5 教職員の働き方改革を進める

(1) ノークラブデー・全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。

(2) 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。

* 時間外勤務の年間平均時間を令和5年度には320時間以下とする。(R1; 420時間5分、R2; 325時間47分)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
-----------------------------	--------------

府立布施北高等学校

<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答数は減少した(564名→513名)。 ・4点満点に換算したポイント(P)の総平均はやや減少した。(2.9P←3.05P) ・評価の高い設問は、「4 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(3.18P) 「7 生徒の興味・関心・適性・進路に応じて選択科目が選べる。」(3.15P) 「21 授業などでコンピュータやプロジェクタを活用」(3.37P) 「22 デュアル実習等の学校にない特色」(3.29P) 「25 30分授業は学びなおしに役立つ」(3.20P) で、低い設問は、「8 先生の指導は納得できる」(2.62P) 「24 授業や部活動などで、保護者や地域の人とかかわる機会がある。」(2.29P)、低いのが昨年より上昇しているのは、「15 生徒会活動が活発」(2.66P) 「18 校長の考えや話は興味深くわかる」(2.44P) 「23 渡日生との交流や多文化理解の機会」(2.51P) であった。 ・本校のキャリア教育や基礎基本の学力を育成、授業の工夫が実感される結果となった。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答数は増加した(189名←116名)。 ・4点満点換算ポイント(P)の数値で13/19 設問でポイントが上昇し、総平均も上昇した。(3.20 ←3.14P) ・評価の高い設問は「16 将来の進路や職業などについて適切な指導」(3.42P) 「17 デュアルシステム等学校の特色や情報提供の努力」(3.45P) 「18 外国ルーツのある生徒やその保護者に十分な支援」(3.44P) 「19 デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験」(3.61P) 「20 エンパワメントスクールに入学してよかった」(3.59P) で、低い設問は「1 子どもは学校に行くのが楽しみ」(2.88P) 「2 自クラスが楽しい」(2.88P) 「3 授業が楽しくわかりやすい」(2.75P) であった。 ・評価上昇の大きい設問は「9 子どもの心身の健康について、相談しやすい雰囲気」(+0.10P) であった。減少は「8 学校の生徒指導方針に納得できる」(-0.13) 「12HP 見ることもある。」(-0.14P) であった。 ・コロナ禍で、修学旅行等行事やクラブ活動、オンライン授業等、教育活動全般が制限を受けた影響と考えられるが、設問1、2、3の評価については、今後の大きな課題である。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答数はほぼ変化ない(54名←55名)。4点満点換算P総平均はやや下降した。(2.62←2.75P) ・評価の高い設問は「6 指導方法の工夫・改善」(3.07P) 「10 いじめ(疑いを含む)対応」(3.0P) 「12 系統的なキャリア教育」(3.15P) 「16 外国にルーツがある生徒に対する支援体制」(3.13P) 「17 人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導」(3.02P) で、低い設問は「5 指導内容を他教科と相談」(2.13P) 「15 生徒会活動を通じて生徒が民主的な手続きを経て主体的に活動できるよう学校全体で支援」(2.06P) 「21 校内人事・校内分担」(2.09P) であった。 ・教職員が、本校の3本柱である、学びなおし、人権教育、キャリア教育を十分に理解して教育活動に取り組んでいる成果が表れている。一方で、今年度も多岐にわたる通常業務に加えて、様々なコロナ対応が必要となり過負荷になっている。業務分担や意見交換を進め意欲を高める工夫が必要である。 	<p>第1回(7月10日)</p> <p>【テーマ】学校の課題と今後の特色づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面倒見の良さは変わらないほしい。卒業後も繋がることのできる学校であってほしい。 ・それまでと比較して41期(卒業生)の学校教育自己診断評価が高い。その背景には、「厳しくとも愛情深い面倒見の良さ」があるのではないかと。 ・中学校における進路選択では、高校が最後まで面倒見を見てくれるのが重要である。布施北高校に進学した生徒が様々な成功体験を積み、自己肯定感が向上しているのを感じる。 ・デュアルシステムは大きな特色なので、さらに押し出してほしい。 ・将来構想委員会の試み(参加型研修)で多くの先生方が、生徒と丁寧にかかわることの大切さを表現していることはすばらしい。 ・主体性の名のもとに、「できない」を本人に返して元気が出なくなる空気が世の中にある。「できる」に変えるために何ができるのかを常に考えてほしい。先生との出会いで生徒が変わることもある。先生の仕事は、勉強を教えるだけではなく、人を育てることである。 ・コロナ感染拡大の影響で、生徒と先生の繋がりが薄くなるのが心配である。 <p>第2回(11月20日)</p> <p>【授業見学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしんどさを語れる空気がよい。 ・皆が、自分の言葉で堂々と発表しており感動した。また、自分の発表が控えていて緊張する中、友だちの発表を真剣に聞いている生徒の姿がとても良かった。 <p>【テーマ】学校の広報戦略～中学生に本校の良さをいかに伝えるか～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布施北の大きな魅力は、デュアルシステムである。他のエンパワメントスクールとの違いを強調するためにも、デュアルを発展させていくことが広報戦略となる。テレビ、新聞等を活用しての広報活動に積極的に取り組んでほしい。 ・中学校訪問の資料を見て、取り組みが素晴らしいと感じた。 ・広報パンフレットに保護者のコメントを掲載してほしい。ぜひ協力したい。 ・多文化も布施北の特色のひとつ。アピールしてほしい。 ・地域としても、布施北高校をしっかりと支えていきたい。 <p>第3回(3月12日)</p> <p>【テーマ】令和3年度を振り返って・令和4年度の布施北高校～魅力ある学校づくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の良さである面倒見の良さについて、今後も大切にしてほしい。大事なものは、先生方が力を合わせることであり、互いに伸びる努力が必要。期待している。 ・学校教育自己診断の経年変化で、数値が下がった項目については、深刻にとらえるべきである。なぜそうなったのかの分析が必要。生徒の願いを受け止めてほしい。今後の課題として、一緒に考えていきたい。 ・難しいと思うが、卒業後の追跡やフォロー等、卒業後の面倒見の良さも、布施北高校の特徴にしてほしい。布施北高校を卒業して良かった、と思っている卒業生も多いし、卒業後も応援している。 ・この2年間はコロナ禍の影響が大きかったが、今後はコロナと付き合う社会になる。学校も、覚悟と工夫で、生徒たちがたくさんの思い出を作れる教育活動を行ってほしい。 ・学校と地域の両方で学べるという魅力を前面に出しながら、デュアルシステムを発展させてほしい。 ・HPが素晴らしくなった。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[令和2年度値]	自己評価
1 学習活動の充実	(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備と、生徒が「わかった」「楽しい」と思う授業展開	(1) ア 授業規律を徹底指導し、生徒が集中し落ち着いて取り組める授業環境を作る。 イ モジュール授業や習熟度別授業を中心に、授業の楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。	(1) ア 授業中における懲戒生徒数 10人以下継続 [6人] イ 生徒学校教育自己診断「30分授業は苦手な分野の学び直しに役立っている」肯定的評価 85%以上継続 [87.7%] 生徒学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度) 70%以上継続 [74.7%]	(1) ア 年々授業環境が向上し要求水準がアップする中、概ね一致した指導ができています。 ・授業中の懲戒生徒数6人 [R1:11、R2:6] (○) イ 1年生の国数英モジュール授業、2・3年生の習熟度別授業を中心に、基礎基本の徹底、ICTの活用によるわかりやすい授業を実践できた。昨年同様に、生徒が積極的に参加している様子が伺えた。 ・生徒学校教育自己診断「30分授業は苦手な分野の学び直しに役立っている」肯定的評価 83.7% (△)、「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度) 69.7% (○)
	(2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実	(2) ア エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型(主体的、対話的、深い学び)授業を充実させる。 イ 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習を中心としたエンパワメントタイムにおけるスムーズな授業を遂行する。 ウ 外部や地域の教育力を活かした授業展開を積極的に実施する。	(2) アイ 生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価 80%以上継続 [86.3%] ・インターンシップ出席率の維持 [インターンシップに代わる職場見学 97%] ・デュアル実習出席率の維持 [校内研修含む 97.5%] ウ 生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価を維持 [42.0%]	(2) ア 1人1台端末も活用して、エンパワメントタイムの授業で計画以上に参加体験型の授業を実施できた。他の授業でも生徒との対話型の授業を多く実施できている。 イ コロナ禍によりデュアル実習等について縮小して実施した。 ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価 78.1% (△)、インターンシップ [中止、外部講師による授業に変更] (一) デュアル実習出席率 95% (○) ウ 生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価 40.8%、地域等連携は制限を強いられたが、関連科目を充実のために、普段からの指導に加えて、外部講師を招いて直接話を聞く機会を実施した。(○)

	<p>(3) 主体的、対話的、深い学びを成立させる教職員の授業力の向上</p>	<p>(3) ア 授業公開週間を設定し、授業の工夫や授業方法・指導方法について、教職員が互いに学び合う場をつくる。 イ 観点別評価の導入にともない、授業公開や研究協議を含む教員の資質向上に向けた研修を行う。</p>	<p>(3) アイ ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均のアップ[62.8%] ・観点別評価に係る教員研修（授業公開や研究協議含む）の実施[0回]</p>	<p>(3) アイ 授業公開週間に加え法廷研修の研究授業や研究協議を広く活用し、教員間の授業力の向上のための機会とした。 また、観点別評価の本格導入に向けた教員の資質向上のための研修を実施し互いに学び合うことができた。 ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均56.9%（△） ・観点別評価に係る教員研修を実施（○）</p>
<p>2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかりと把握し高校生活に定着させるための生徒指導と外部連携の充実</p> <p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり</p> <p>(3) 人権教育の推進</p>	<p>(1) ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識や基本的生活習慣を醸成する。 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図る。 ウ 中高連絡会の開催や入学当初の随時迅速な中高連携を実施する。 エ 子ども家庭センターなど外部機関との連携を進め生徒指導を充実させる。</p> <p>(2) ア 要配慮生徒や課題を抱える生徒の状況把握と情報共有に努め、教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、スクールカウンセラー（SC）及びスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携を強化し、生徒支援を充実させる。 イ 生徒会や実行委員会中心の生徒が自主的に参加できる学校行事へと見直し、工夫、改善を行い、内容の充実を図るとともに、部活動や生徒会行事の活動を活発化させる。</p> <p>(3) ア SNS上やコロナに係る誹謗中傷を含めた生徒対象の人権学習を系統的、計画的に実施する。 イ 人権教育やカウンセリングマインドによる生徒指導、支援教育をテーマとした教職員研修を実施する。 ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、他の生徒との交流を進め、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。</p>	<p>(1) アイウエ ・懲戒生徒人数の減少 [37人] ・長期欠席者数の減少 [45人] ・中途退学者率5%以下 [4.1%] ・欠席延人数の維持 [4774] ・遅刻延人数の維持 [4856]</p> <p>(2) ア ・生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価70%以上継続 [74.0%] ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価90%以上継続 [91.1%] イ ・教職員学校教育自己診断「学校行事の工夫・改善」の肯定的評価60%以上 [55.4%] ・部活動加入率40%以上 [36%] ・体育祭、文化祭の生徒の出席率95%以上継続 [体育祭96.3%・文化祭中止]</p> <p>(3) ア ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価80%以上継続 [87.9%] イ ・教職員研修年間3回以上 [3回] ウ ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価50%以上 [48.1%]</p>	<p>(1) アイ きめ細やかで粘り強い生徒指導や保護者との連携により、基本的生活習慣の確立の取組が進んでいる。 ・懲戒生徒人数74人（△）・長期欠席者数39人（○）・中途退学者率5.1%（○）・欠席延人数6889人（△）・遅刻延人数4387人（○） ウ 随時迅速な中高連携は、さらに進める必要があるが、全職員による中学校訪問等の中高連携は実施できた。（のべ150校）（○） エ 要支援生徒等のケース会議を年間17回実施。子ども家庭センターと連携し、生徒指導や教育相談にいかした生徒支援を行った。（○）</p> <p>(2) ア 要配慮生徒の情報共有や校内研修、ケース会議を多く実施することにより教職員の意識が向上した。教育相談室の環境整備を進めるとともに、マネジメント経費でSCとSSWの増時間を継続した。教育相談体制の更なる充実が課題である。 ・生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価69.4%（△）、教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価63%（△） イ コロナ禍で体育祭を延期。体育祭と文化祭を初めて連続実施。部活動は、新一年生へのクラブ紹介や体験が実施できなかった。学校説明会では生徒会を中心に生徒が活躍できた。 ・教職員学校教育自己診断「学校行事の工夫・改善」の肯定的評価42.6%（△）部活動加入率30%（―）体育祭出席率91.9%・文化祭出席率90.1%、コロナによる欠席や就職試験での欠席があったが高い出席率を保てた。（○）</p> <p>(3) ア コロナ禍の影響で再計画を強いられたが、総合的な学習の時間等を活用し、人権学習を系統的に行った。 ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価76.9%（△） イ 人権教育、生徒指導、めざすべき学校像・育てたい生徒像等に関する職員研修を実施した。 ・教職員研修年間5回実施（◎） ウ 校内では文化祭等、交流を実施した。校外では府立外教と連携し、生徒がWaiWaiトーク等に積極的に参加し、活躍できた。 ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価50.9%（◎）</p>
<p>3 キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 三年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 地域等との連携強化</p>	<p>(1) ア キャリア教育の充実のために、職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。 イ 進路講演等を通じて、進路決定及び定着に向けた取組みを継続する。</p> <p>(2) ア 地域と連携した継続可能な本校のデュアルシステムを追求していくために、デュアルシステムでの連携企業・施設等との連携をする。</p>	<p>(1) アイ ・進路未定率20%以下 [14.8%] ・学校斡旋就職内定率80%以上 [88.2%] ・生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価85%以上継続 [87.5%]</p> <p>(2) ア ・デュアルシステム意見交換会の開催 [1回] ・デュアル地域協働本部の開催年間3回以上 [1回]</p>	<p>(1) ア キャリア教育の充実のために、様々な機会を設け、生徒個々人の夢や進路実現への意識を高める取り組みを実施した。 ・進路未定率15.5%（○）、学校斡旋就職内定率97.3%（◎）、生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価82.5%（△） イ 進路講演会を実施（○）</p> <p>(2) ア コロナ禍で、デュアル実習は回数を減らして実施。受入れを見合わせる事業所が増加する中、持続可能な方策の検討が課題である。 ・デュアルシステム意見交換会を実施（○）、デュアル地域協働本部の開催年間3回、開催準備打合せ4回実施（○）</p>

